



建学の精神

基督教独立学園は、どの既成のキリスト教派にも所属していません。内村鑑三が唱導した自由と独立を尊ぶ無教会の立場に立ち、聖書の示す正義と平和の道を求めて歩んでいます。

読むべきものは 聖書
 学ぶべきものは 天然
 なすべきことは 労働 内村鑑三

の言葉のごとく、聖書と自然と労働を通しての人間教育と福音伝道をめざします。

神によってつくられた人格の尊重を自覚せしめ、神を畏れるキリスト教的独立人を養成することを、建学の精神としています。



基督教独立学園高等学校 校章・マーク
 キリストの十字架の縦横に、基督教独立学園
 高等学校の頭文字を取り、KDGを入れています。

学校法人 基督教独立学園

〒999-1292 山形県西置賜郡小国町叶水826

TEL : 0238-65-2021 FAX : 0238-65-2401



創立

前身である基督教独立学校は、1934年(昭和9)に開校しました。

創立者の鈴木弼美は、1920年(大正9)に東京帝国大学(当時)理学部物理学科に入学。内村鑑三の聖書研究会に出席するようになります。内村は、山形県小国地方は山に囲まれた別天地であり、上杉鷹山の領地でもあったので、ここに純粹のキリスト教を伝えたいと考えていました。そして集會中に、伝道の必要なことを説き、「アメリカにいた時分から、行きたいと思っていた所がある。それは山形県の山奥の小国村で、ここならアメリカの宣教師も入ったことはない。とうとう今日まで行けなかった。もう一つ、それは岩手県の山地である。この夏休みに諸君の内、これらの地方に行つて伝道してくれる人はいないか」と青年たちに呼びかけました。

この呼びかけに応え、政池仁、鈴木弼美、横山善之らが、毎年のように小国へ夏の訪問伝道に行くようになりました。鈴木は1933年(昭和8)12月に転住し、翌年9月1日に基督教独立学校を創設し、午前は塾生と木工などの仕事をし、午後は勉強を教えました。

開校直後、1937年(昭12)から日華事変などのため6年間応召。また1944年(昭和19)6月から翌年2月まで、鈴木は友人の渡部弥一郎とともに、戦争を拒否し、天皇を神としないとしたため、治安維持法に違反するとして逮捕され、8カ月間、獄中の苦しみを耐えました。この間、基督教独立学校は休校状態でした。

こうして守られた学園の基本方針は、「少数教育を守る」「生徒の〈自治の力〉を信頼する」「あえて〈不便な環境〉を保持する」の三つです。特に1学年の定員は、一時30名にしたこともありましたが、25名定員に戻して堅持されています。

日本一小さな高等学校ですが、小さいが故に時代の風潮に押し流されることなく、教育の純粹性を保ちつつ、存続することが許されたのでしょう。1997年(平成9)の第47期生で卒業生が1000人を超え、2008年(平成20)3月に第58期生を送り出し、卒業生は1316名となりました。

創立の背景と歴史

創立者 鈴木弼美は山梨県で800年も続いた甲斐絹問屋の老舗の家に、次男として生まれました。長男が夭折したため、鈴木は跡取りとしても期待されていません。大学入学の翌年1921年(大正10)鈴木は戸主として、東京・代々木初台に敷地約1500坪、テニスコートと地下室のある邸宅を、近江ミッシヨンのW・M・ヴォーリスに依頼して建築。鈴木はここから、学生服でなく背広を着て大学に通ったといいます。ところが、1923年(大正12)関東大震災によって、東京・日本橋の店は全焼、大被害を受けます。鈴木が政池仁の勧めで入会していた内村の聖書研究会に出席するようになったのは、震災の翌年1月からで、ヴォーリスの勧めです。内村の門に入ってキリスト教を学び、物理学の真理よりも信仰の真理のほうがなお偉大であることがわかり、聖書の研究を一生の仕事と考えるようになりました。

戦後は1948年(昭和23)に山形県の認可を受け、1年生10人の生徒と基督教独立学園高等学校として再出発。教育は少数制が良いとは言うものの、あまりに少ない生徒数のため存続が危ぶまれ、財団法人としての認可がすぐに下りないほどでした。当時の村山道雄山形県知事の尽力で、申請の翌年に認可を得、1951年(昭和26)には学校法人となりました。文部省(当時)の危惧にもかかわらず、小さいが故に健全に歩み、今日の教育の荒廃の中にあつて、受験準備教育を行わず、聖書を土台とした本当の人間教育を旨として歩んできました。

基督教独立学園は、山形県・小国町の東部地域にあります。小国町は東京23区に匹敵する広い面積(約739km²)を持ち、その95%以上が山で、町の北の境は国立公園大朝日岳の山頂、南の境は磐梯朝日国立公園飯豊山の山頂という立地です。この原生的環境が多い、豊かで恵まれた自然の中で、生徒と職員とその家族が共同体として一緒に生活し、学びを共にしていくという「教育共同体としての学園」という在り方を続けてきました。

鈴木は、1988年(昭和63)3月をもって校長を引退し、名誉校長に就任。その跡を、武祐一郎が受け継ぎました。

建学の理念に示しているように、基督教独立学園では神を畏れる一人の独立人として、よく考え、自分で判断し、責任を持って生活できる人になることを大切に考えています。生徒の自主性を尊重するため、細かな規則はできるだけつくらないようにしていますが、年齢や考え方の違う人たちが一緒に生活をしていくためには生活上の基本的なルールのほかに、当然、守らなければならない約束があります。

そのため、入学にあたって、新入生は校長と契約を交わします。学園の憲法といえるこの約束は、いわば契約の書となります。

- 「神を畏れる人」を育てる
 - 「天然から学ぶ人(自学の人)」を育てる
 - 「労働することが好きな人」を育てる
 - 「自ら学ぶことが好きな人」を育てる
 - 「平和を創り出す人」を育てる
- の五つを教育方針としています。



創立者 鈴木弼美(1899~1990年)
 物理の原理より、なお偉大なキリストの教えを知り、一人ひとりと向き合った教育を実践しました。

